

「ない」こと確認するのも 発掘調査！

③獣医学国際教育研究棟新営工事に伴う発掘調査

調査の概要

○調査地：吉田キャンパス理学部3号館北側駐車場敷地

○調査面積：608 m²

○調査期間：平成25年8月5日～10月7日

調査の経緯

吉田キャンパス理学部3号館北側駐車場敷地において、獣医学国際教育研究センター棟の新営が計画されました。周辺地における既往調査の成果を見ると、平成3年度から平成4年度にかけて実施した農学部連合獣医学研究棟新営に伴う試掘・事前調査において、縄文時代の遺物を包含する河川の西肩部（下左写真）、また平成23年度実施の特高受変電設備棟新営に伴う本発掘調査において平安時代後期から鎌倉時代の遺物を包含する南東～北西方向にのびる河川（下右写真）が検出されていることから、工事予定地内に埋没河川が存在する可能性は極めて高いと予想されたため、開発地全域において発掘調査を実施することになりました。

調査の成果

調査の結果、広大な敷地の北西端部において、**河川跡**を検出しました。河川埋土からは、縄文時代または弥生時代のものと見られる土器の小片が複数出土しましたが、遺存状態が悪くかつ少量であったため、この河川の所属時期の特定は困難です。

また、河川埋土上から掘り込まれた**土壤**も1基確認しました。遺構埋土には奈良時代もしくは平安時代のものと見られる須恵器の小片が混ざっていたため、当該時期の遺構と推定されますが、遺構の性格は不明です。

調査区の東方は大きく削平されているようで、遺構は全く検出されませんでした。

平成25年の夏。暑かったです。外気温は連日40度を超えました。猛暑の中、土に向き合った2ヶ月間。実りは少なかったですが、「埋蔵文化財が存在しない」ことを確認するのもまた調査成果です。我々は「宝探し」してるわけではないですから。



農学部連合獣医学科棟敷地において検出された縄文時代河川（南西から）　特高受変電設備棟敷地において検出された平安～鎌倉時代河川（南西から）
※奥手のビニールハウスがある敷地が今回の調査地